

令和4年度 主要事業評価シート

① 基本事項	計画コード	22012	事業名	水道施設耐震化整備事業			
	事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助等 <input type="checkbox"/> その他()					
	施策体系	施策の大綱	01:快適さを支える生活基盤の向上		予 算 科 目	会計	11:水道事業会計
		基本施策	03:上下水道の充実			款	資1:資本的支出
		施策の方向	01:安全でおいしい水の安定供給			項	01:建設改良費
		重点プロジェクト	03:「しなやか田園都市」プロジェクト			目	01:施設費
事業期間	R 1 年度 ~ R 9 年度	主な根拠法令等	水道法				

評価分類	A1
------	----

担当部署	
部	上下水道部
課	上水道課 上水道工務G

② 事業概要 (P)	事業の必要性(経緯・背景等)	事業の対象(誰に、何に対して)	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	事業の内容(どのような取組を行うのか)
	地震災害等により断水となると市民生活等に与える影響が大きいことから、平常時はもとより、震災等の非常時においても一定の給水を確保する必要があるため、新水道ビジョンに基づき水道施設(管路・浄水場・配水池等)の耐震化を図り、被害の発生を抑制し、影響を極力小さくする必要がある。	市民	水道施設の耐震化を進め、地震災害等の被害の低減を図ることにより、非常時においても一定の給水を確保する。また、二次災害を未然に防止するとともに、緊急遮断弁を設置し非常用飲料水を確保する。	基幹管路である水源地から配水池を経由し、地区の主要部までの経路や、指定避難所や災害対策本部等の重要施設までの経路の水道施設の耐震化を行う。なお、水道施設簡易耐震診断の検証結果や被災時に与える給水の影響範囲等を考慮し、耐震化を進める。また、地震災害等における二次災害を未然に防止するとともに、断水時においても応急給水が対応できるよう主要配水池に緊急遮断弁を設置する。

年度		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度		
③ 事業の実施状況 (P・D)	事業計画	○基幹管路耐震化整備 ・第1水源系 ○緊急遮断弁整備 ・関第2水源系	○緊急遮断弁整備 ・第1水源系	○基幹管路耐震化整備 ・第1水源系	○基幹管路耐震化整備 ・第1水源系		
	活動実績 (計画通り実施できたか)	第1水源系は、延長75.8mの基幹管路耐震化工事を行った。また、詳細設計業務委託では、鉄道横断箇所になることから、関係機関である西日本旅客鉄道(株)と計画協議を行っていたが、協議に時間を要したため、委託業務の発注が遅れたことにより、年度内に完了することができなかった。関第2水源系においては、緊急遮断弁を1基設置し、危機管理体制の拡充を図った。					
計画額	事業費	130,000千円	104,000千円	65,000千円	160,000千円	120,000千円	
		国・県支出金					
		地方債					
		その他					
決算額	事業費	130,000千円	104,000千円	65,000千円	160,000千円	120,000千円	
		国・県支出金					
		地方債					
		その他					
①期間内事業費(R4-7)		475,000千円	②期間外事業費(R8-)	205,500千円	①+②総事業費	680,500千円	

(令和4年度予算額の内訳)

前年度からの繰越額	0千円
当年度の最終予算額	130,000千円
次年度への繰越額	26,000千円

指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
④ 指標 (C)	基幹管路の耐震化率	成果	%	計画値	19.8	19.8	20.2	21
				実績値	19.8			
主要配水池への緊急遮断弁の設置施設数	主要配水池への緊急遮断弁の設置数	成果	施設	計画値	1	1		
				実績値	1			
				計画値				
				実績値				

⑤ 成果 (C)	事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか)
B	第1水源系では、基幹管路の耐震化を行い、耐震化率を計画値である19.8%まで向上させた。また、令和6年度以降の工事施行に向けた詳細設計業務を行っている箇所は、鉄道敷地内での作業となることから、関係機関である西日本旅客鉄道(株)と工事施行に係る計画について協議を行った。 関第2水源系では、緊急遮断弁を1基設置し、水の流出による二次災害を未然に防止するとともに、亀山市応急給水マニュアルに応じた対応を図ることができた。
まずまず成果を得た	

事業の対象	事業の目的
市民	水道施設の耐震化を進め、地震災害等の被害の低減を図ることにより、非常時においても一定の給水を確保する。また、二次災害を未然に防止するとともに、緊急遮断弁を設置し非常用飲料水を確保する。

(再掲)

⑥ 課題 (C)	事業の達成状況等を踏まえた課題事項
	詳細設計業務を行っている箇所は、鉄道横断になることから、関係機関である西日本旅客鉄道(株)と協議を行いながら業務を実施していたが、年度内に完了することができなかった。しかし、令和6年度の工事施行に向け、西日本旅客鉄道(株)と委託契約を締結した上で委託工事を計画していることから、契約工期である令和5年9月には詳細設計業務を完了させる必要がある。また、緊急遮断弁を設置する箇所は、場所が狭小であり、既設埋設物も多いことから、慎重に工事を実施する必要がある。

⑦ 事業の展開 (A)	方向性
継続(現状維持)	現状どおり事業を継続する
	改善・見直し内容
令和5年度で対応する(した)もの	事業を円滑に進めるため、西日本旅客鉄道(株)と調整を入念にし、詳細設計業務の協議を完了させる。また、緊急遮断弁の設置箇所は、亀山配水池であり、これまで以上に既設埋設物が多いことから、水道施設台帳等を活用して適切な箇所での工事ができるよう検討を行った。
	令和6年度以降で対応するもの

【履歴】	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
成果判定	B			
事業展開	継続(現状維持)			

1次評価者	上下水道部 上水道課 上水道工務GL 高沢 直
最終評価者	上下水道部 上水道課長 鳥喰 教義